

# 幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿

ア 健康な心と体

イ 自立心

ウ 協同性

エ 道徳性・規範意識の芽生え

オ 社会生活との関わり

カ 思考力の芽生え

キ 自然との関わり・生命尊重

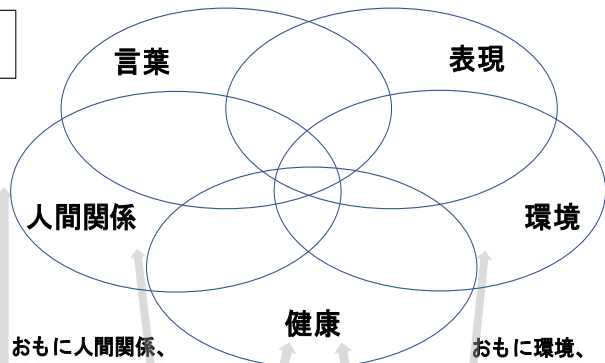
ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

ケ 言葉による伝え合い

コ 豊かな感性と表現



## 5領域



おもに人間関係、  
そして言葉へと  
つながる視点

おもに環境、  
そして表現へと  
つながる視点

身近な人と  
気持ちが  
通じ合う

生命の誕生

身近なもの  
と関わり感性が  
育つ

## 3つの視点

おもに健康へと  
つながる視点

健やかに  
伸び伸びと育つ

## 養護

これらすべてを養護が包む

生命の誕生から3つの視点  
→5領域へと  
広がっていく  
イメージ

10の姿は突然  
出てきたものでは  
なく、それぞれ  
の5領域から  
抽出した、今の  
時代とくに大切  
にしたい項目で  
す。



## 第2章 保育の内容

### 【養護と教育を一体的に展開する】

保育所においては、どんな保育の場面であっても「養護だけ」「教育だけ」ということはありません。安心感、信頼感に基づいた養護的な関係があるからこそ、子どもは新しい学びに向かっていくことができます。3歳未満児の保育では、養護の側面が色濃く感じられる場面が多いと思いますが、例えばミルクを与えるときに、子どもは目を合わせてほほえんだり、優しく声をかけたりしながらミルクを与えてくれる保育者を通して、「『人』とはよいものだ」ということなどを学んでいきます。これが教育的側面です。保育は、いつも養護と教育が一体となっているのです。

## I 乳児保育に関わるねらい及び内容

### 1. この時期の特徴

- ・ 視覚、聴覚などの感覚や、座る、はう、歩くなどの運動機能が著しく発達する。
- ・ 特定の大人との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆が形成される。

※この特徴は、2017年告示保育所保育指針の基本的事項をまとめたものである。

(1歳以上3歳未満児、3歳以上児の同項も同様に示している)

### 2. ねらい、内容及び内容の取扱い

#### (1) 健やかに伸び伸びと育つ

ねらい	内 容
① 身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。	① 保育士等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする。
② 保健的で安全な活動しやすい環境の中、伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動を十分行う。	② 一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす。
③ 食事、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える。	③ 個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ。
	④ 一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする。
	⑤ おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。
内 容 の 取 扱 い	
① 心と体の健康は、相互に密接な関係があることを踏まえ、温かい触れ合いの中で、心と体の発達を促すこと。特に、寝返り、お座り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きなど、発育に応じて、遊びの中で体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。	
② 健康な心と体を育てるためには望ましい食習慣の形成が重要であることを踏まえ、離乳食が完了期へと徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるようにするとともに、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。なお、食物アレルギーがある子どもへの対応については、囑託医等の指示や協力の下に適切に対応すること。	

## (2) 身近な人と気持ちが通じ合う

ねらい	内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。</li> <li>② 体の動きや表情、発声等により、保育士等と気持ちを通わせようとする。</li> <li>③ 身近な人と親しみ、信頼関係が芽生える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 子どもからの働きかけを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉がけによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす。</li> <li>② 体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらい、保育士等とのやり取りを楽しむ。</li> <li>③ 生活や遊びのなかで、自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表す。</li> <li>④ 保育士等による語りかけや歌いかけ、発声や喃語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ。</li> <li>⑤ 温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える。</li> </ul>
内容の取扱い	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 保育士等との信頼関係に支えられて生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮して、子どもの多様な感情を受け止め、温かく受容的・応答的な関り、一人一人に応じた適切な援助を行うようにすること。</li> <li>② 身近な人に親しみを持って接し、自分の感情などを表し、それに相手が応答する言葉を聞くことを通して、次第に言葉が獲得されていくことを考慮して、楽しい雰囲気の中で保育士等との関わりを大切に、ゆっくりと話しかけるなど、積極的に言葉のやり取りを楽しむことができるようにすること。</li> </ul>	

## (3) 身近なものに関わり感性が育つ

ねらい	内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 様々なものを見たり触れたりする機会を通して、身の回りのものに親しみ、興味や関心を持つ。</li> <li>② 聞く、見る、触れる、探索するなど、身近な環境に興味を持ち、自分から関わろうとする。</li> <li>③ 身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 身近な生活用具、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ。</li> <li>② 生活やあそびの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の働きを豊かにする。</li> <li>③ 保育士等と一緒に様々な色彩や形のものや絵本などを見る。</li> <li>④ 玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。</li> <li>⑤ 保育士等のあやし遊びに機嫌よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする。</li> </ul>

### 内 容 の 取 扱 い

- ① 玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、その時々の子どもの興味や関心を踏まえるなど、遊びを通して感覚の発達が促されるものとなるように工夫すること。なお、安全な環境の下で、子どもが探索意欲を満たして自由に遊べるよう、身の回りのものについては、常に十分な点検を行うこと。
- ② 乳児期においては、表情、発声、体の動きなどで、感情を表現することが多いことから、これらの表現しようとする意欲を積極的に受け止めて、子どもが様々な活動を楽しむことを通して表現が豊かになるようにすること。

※ねらいに関しては、より具体化するため、保育所保育指針で示されたねらいに、久留米市保育要領6訂で示したねらいを一部付加して示している。

(1歳以上3歳未満児、3歳以上児の示し方も同様である)

## Ⅱ. 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容

### 1. この時期の特徴

- ・歩き始めから、歩く、走る、跳ぶなどへと基本的な運動機能が次第に発達する。
- ・排泄の自立のための身体的機能が整う。
- ・つまむ、めくるなどの指先の機能も発達する。
- ・食事、衣類の着脱など、保育士の援助を受け自分で行うようになる。
- ・発声も明瞭になり、語彙も増加し自分の意志や欲求を言葉で表出できるようになる。

### 2. ねらい、内容及び内容の取扱い

#### (1) 健康

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う。

ね ら い	内 容
① 保育士の愛情に支えられた安全な環境の下で、明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。 ② 生活や遊びの中で、自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。 ③ 健康、安全な生活に必要な習慣に気づき、自分でしてみようとする気持ちが育つ。	① 保育士等の愛情豊かな受容の下で、安定感を持って生活をする。 ② 食事や午睡、遊びと休息など、保育所における生活のリズムが形成される。 ③ 走る、跳ぶ、登る、押す、ひっぱるなど全身を使う遊びを楽しむ。 ④ 様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ。 ⑤ 身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く。 ⑥ 保育士等の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする。 ⑦ 便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる。
内 容 の 取 扱 い	
① 心と体の健康は、相互に密接な関連があることを踏まえ、子どもの気持ちに配慮した温かい触れ合いの中で、心と体の発達を促すこと。特に、一人一人の発育に応じて、身体を動かす機会を十分に確保し、自ら身体を動かそうとする意欲が育つようにすること。	
② 健康な心と体を育てるためには望ましい食習慣の形成が重要である事を踏まえ、ゆったりとした雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、嘱託医等の指示や協力の下に適切に対応すること。	
③ 排泄の習慣については、一人一人の排尿間隔等を踏まえ、おむつが汚れていない時に便器に座らせるなどにより、少しずつ慣れさせるようにすること。	
④ 食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなど、生活に必要な基本的な習慣については、一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で行うようにし、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重すること。また、基本的な生活習慣の形成にあたっては、家庭での生活経験に配慮し、家庭との適切な連携の下で行うようにすること。	

## (2) 人間関係

他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。

ねらい	内容
① 保育所での生活を楽しみ、見守られているという安心感の中で、身近な人と関わる心地よさを感じる。 ② 安心できる保育士等との関係の下で、周囲の子ども等への興味や関心が高まり、関わりをもとうとする。 ③ 保育所の生活の仕方に慣れ、決まりの大切さに気付き、自分で行動しようとする。	① 保育士等や周囲の子ども等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる。 ② 保育士等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす。 ③ 身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の子どもと関わりをもって遊ぶ。 ④ 保育士等の仲立ちにより、他の子どもとの関わり方を少しずつ身につける。 ⑤ 保育所の生活の仕方に慣れ、決まりがあることや、その大切さに気付く。 ⑥ 生活や遊びの中で、年長児や保育士等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする。
内容の取扱い	
① 保育士等との信頼関係に支えられて生活を確立するとともに、自分で何かをしようとする気持ちが旺盛になる時期であることに鑑み、そのような子どもの気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的に関わり、適切な援助を行うようにすること。 ② 思い通りにいかない場合等の子どもの不安定な感情の表出については、保育士等が受容的に受け止めるとともに、そうした気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることへの気付き等につなげていけるように援助すること。 ③ この時期は自己と他者との違いの認識がまだ十分ではないことから、子どもの自我の育ちを見守るとともに、保育士等が仲立ちとなって、自分の気持ちを相手に伝えることや相手の気持ちに気付くことの大切さなど、友達の気持ちや友達との関わり方を丁寧に伝えていくこと。	

## (3) 環境

周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

ねらい	内容
① 身近な環境に親しみ、触れ合う中でその不思議さ、面白さ心地よさなどを味わい、様々なものに興味や関心をもつ。 ② 様々なもので遊ぶことや、身近な自然と触れ合うことを通して、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。 ③ 身近な事物を見たり、聞いたり、触ったりする経験を通して感覚の働きを豊かにする。	① 安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。 ② 玩具、絵本、遊具などに興味を持ち、それらを使った遊びを楽しむ。 ③ 身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量等の物の性質や仕組みに気付く。 ④ 自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境をとらえる感覚が育つ。 ⑤ 身近な生き物に気付き、親しみをもつ。 ⑥ 近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ。

内容の取扱い

- ① 玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、遊びを通して感覚の発達が促されるように工夫すること。
- ② 身近な生き物との関わりについては、子どもが命を感じ、生命の尊さに気付く経験へとつながるものであることから、そうした気付きを促すような関わりとなるようにすること。
- ③ 地域の生活や季節の行事などに触れる際には、社会とのつながりや地域社会の文化への気付きにつながるものとなることが望ましいこと。その際、保育所内外の行事や地域の人々との触れ合いなどを通して行うこと等も考慮すること。

(4) 言葉

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

ねらい	内容
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 身振りで伝えたり、ことばで表現したりする楽しさを感じる。</li> <li>② 人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを身振りや片言で伝えようとする。</li> <li>③ 安心できる保育士等との関わりの中で、絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとする。</li> <li>② 生活に必要な簡単な言葉に気付き、聞き分ける。</li> <li>③ 親しみをもって日常の挨拶に応じる。</li> <li>④ 絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ。</li> <li>⑤ 保育士等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ</li> <li>⑥ 保育士等を仲立ちとして、生活や遊びの中で友達との言葉のやり取りを楽しむ。</li> <li>⑦ 保育士等や友達の言葉や話に興味や関心をもって、聞いたり話したりする。</li> </ol>
内容の取扱い	
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して、次第に言葉が獲得されていくことを考慮して、楽しい雰囲気の中で保育士等との言葉のやり取りができるようにすること。</li> <li>② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、他の子どもの話などを聞くことを通して、次第に話を理解し、言葉による伝え合いができるようになるよう、気持ちや経験等の言語化を行うことを援助するなど、子ども同士の関わりの中を仲立ちを行うようにすること。</li> <li>③ この時期は、片言から二語文、ごっこ遊びでのやり取りができる程度へと、大きく言葉の習得が進む時期であることから、それぞれの子どもの発達の状況に応じて、遊びや関わり工夫など、保育の内容を適切に展開することが必要であること。</li> </ol>	

## (5) 表現

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

ねらい	内容
① 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。 ② 様々な素材に触れ、身の回りの環境との関わりの中で感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。 ③ 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになり、好きなように表現する。	① 水、砂、土、紙、粘土等様々な素材に触れて楽しむ。 ② 音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。 ③ 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。 ④ 歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。 ⑤ 保育士等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする。 ⑥ 生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する。
<b>内容の取扱い</b>	
① 子どもの表現は、遊びや生活の様々な場面で表出されているものであることから、それらを積極的に受け止め、様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるようにすること。 ② 子どもが試行錯誤しながら様々な表現を楽しむことや、自分の力でやり遂げる充実感などに気付くよう、温かく見守るとともに、適切に援助を行うようにすること。 ③ 様々な感情の表現等を通じて、子どもが自分の感情や気持ちに気付くようになる時期であることに鑑み、受容的な関わりの中で自信を持って表現をすることや、あきらめずに続けた後の達成感等を感じられるような経験が蓄積されるようにすること。 ④ 身近な自然や身の回りの事物に関わる中で、発見や心が動く経験が得られるよう、諸感覚を働かせることを楽しむ遊びや素材を用意するなど保育の環境を整えること。	

## 3. 保育の実施に関わる配慮事項

- (1) 特に感染症にかかりやすい時期であるので、体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を十分に行うとともに、適切な判断に基づく保健的な対応を心がけること。
- (2) 探索活動が十分できるように、事故防止に努めながら活動しやすい環境を整え、全身を使う遊びなど様々な遊びを取り入れること。
- (3) 自我が形成され、子どもが自分の感情や気持ちに気付くようになる重要な時期であることに鑑み、情緒の安定を図りながら、子どもの自発的な活動を尊重するとともに促していくこと。
- (4) 担当の保育士が替わる場合には、子どものそれまでの経験や発達過程に留意し、職員間で協力して対応すること。



### Ⅲ. 3歳以上児の保育に関するねらい及び内容

#### 1. この時期の特徴

- ・運動機能の発達により、基本的な動作が一通りできるようになる。
- ・基本的な生活習慣もほぼ自立できるようになる。
- ・理解する語彙数が急激に増加し、知的興味や関心も高まってくる。
- ・集団的な遊びや協同的な活動も見られるようになる。

これらの発達の特徴を踏まえて、この時期の保育は個の成長と集団としての活動の充実が図られるようにする。

#### 2. ねらい及び内容と内容の取扱い

##### (1) 健康

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。

ね ら い	内 容
<p>① 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。</p> <p>・ 戸外遊びを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。</p> <p>② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。</p> <p>③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。</p> <p>・ 自分でできることに喜びをもちながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣を次第に身に付ける。</p>	<p>① 保育士等や友達と触れ合い、安心感をもって行動する。</p> <p>② いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。</p> <p>③ 進んで戸外で遊ぶ。</p> <p>④ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。</p> <p>⑤ 保育士等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心を持つ。</p> <p>⑥ 健康な生活のリズムを身に付ける。</p> <p>⑦ 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。</p> <p>⑧ 保育所における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。</p> <p>⑨ 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。</p> <p>⑩ 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。</p>
内 容 の 取 扱 い	
<p>① 心と体の健康は、相互に密接な関連があることを踏まえ、子どもが保育士等や他の子どもとのあたたかい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと。特に、十分に体を動かす気持ち良さを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。</p> <p>② 様々な遊びの中で、子どもが興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。その際、多様な動きを経験する中で、体の動きを調整するようにすること。</p> <p>③ 自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、子どもの興味や関心が戸外にも向くようにすること。その際、子どもの動線に配慮した園庭や遊具の配置などを工夫すること。</p> <p>④ 健康な心と体を育てるためには、食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏ま</p>	

え、子どもの食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で保育士等や他の子どもと食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関心をもったりするようにし、食の大切さに気付き、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。

- ⑤ 基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、子どもの自立心を育て、子どもが他の子どもと関わりながら主体的な活動を展開する中で、生活に必要な習慣を身に付け、次第に見通しをもって行動できるようにすること。
- ⑥ 安全に関する指導に当たっては、情緒の安定を図り、遊びを通して安全についての構えを身に付け、危険な場所や事物などが分かり、安全についての理解を深めるようにすること。また、交通安全の習慣を身に付けるようにするとともに、避難訓練などを通して、災害などの緊急時に適切な行動がとれるようにすること。

## (2) 人間関係

他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。

ね ら い	内 容
① 保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。  ・保育士等や友だちとのつながりを広げ、集団で生活することを楽しむ。	① 保育士等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 ② 自分で考え、自分で行動する。 ③ 自分で出来ることは自分です。 ④ いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 ⑤ 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。 ⑥ 自分の思ったことを相手に伝え、自分の思っていることに気付く。 ⑦ 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。 ⑧ 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり協力したりする。
② 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。  ・身近な人との関わりや友だちと遊ぶことを楽しむ。	⑨ よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。 ⑩ 友達との関わりを深め、思いやりをもつ。 ⑪ 友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気付き、守ろうとする。
③ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。	⑫ 共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う。 ⑬ 高齢者を始め地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。
内 容 の 取 扱 い	
① 保育士等との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、子どもが自ら周囲に働きかけることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながらあきらめずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、子どもの活動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。	
② 一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、子どもが自己を発揮し、保育士等や他の子どもに認められる体験をし、自分のよさや特徴に気付き、自信を持って行動できるようにすること。	

- ③ 子どもが互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。
- ④ 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、子どもが他の子どもとの関わりの中で他人の存在に気付き、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。
- ⑤ 集団の生活を通して、子どもが人との関わりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、子どもが保育士等との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。
- ⑥ 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と触れ合い、自分の感情や意思を表現しながら、共に楽しみ、共感し合う体験を通して、これらの人々などに親しみを持ち、人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。また、生活を通して親や祖父母などの家族の愛情に気付き、家族を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。

### (3) 環境

周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

ね ら い	内 容
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。</li> <li>② 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。</li> <li>③ 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。</li> <li>② 生活の中で、様々なものに触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。</li> <li>③ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。</li> <li>④ 自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ。</li> <li>⑤ 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。</li> <li>⑥ 日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。</li> <li>⑦ 身近な物を大切にする。</li> <li>⑧ 身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。</li> <li>⑨ 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。</li> <li>⑩ 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。</li> <li>⑪ 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。</li> <li>⑫ 保育所内外の行事において国旗に親しむ。</li> </ul>

内 容 の 取 扱 い

- ① 子どもが、遊びの中で周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心を持ち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。また、他の子どもの考えなどに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育つようにすること。
- ② 幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接接触れる体験を通して、子どもの心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、子どもが自然との関わりを深めることができるように工夫すること。
- ③ 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して、自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にしたい気持ち、公共心、探究心などが養われるようにすること。
- ④ 文化や伝統に親しむ際には、正月や節句など我が国の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること。
- ⑤ 数量や文字などに関しては、日常生活の中で子ども自身の必要感に基づく体験を大切に、数量や文字などに関する興味や関心、感覚が養われるようにすること。

(4) 言葉

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

ね ら い	内 容
<p>① 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に必要な言葉がある程度わかり、したいこと、して欲しいことを言葉で表す。</li> </ul> <p>② 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や物語などに親しみ言葉や内容のおもしろさを味わう。</li> </ul> <p>③ 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。</p>	<p>① 保育士等や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。</p> <p>② したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。</p> <p>③ したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。</p> <p>④ 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。</p> <p>⑤ 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。</p> <p>⑥ 親しみをもって日常の挨拶をする。</p> <p>⑦ 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。</p> <p>⑧ いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。</p> <p>⑨ 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。</p> <p>⑩ 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。</p>

内 容 の 取 扱 い

- ① 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意思などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、子どもが保育士等や他の子どもと関わることにより心を動かされるような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。
- ② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、保育士等や他の子どもなどの話に興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。
- ③ 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付け、想像を巡らせようとするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。
- ④ 子どもが生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れて、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること。
- ⑤ 子どもが日常生活の中で、文字などを使いながら思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わい、文字に対する興味や関心をもつようにすること。

(5) 表現

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

ね ら い	内 容
<p>① いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。</p> <p>・様々なものを見たり、触れたりして、おもしろさ、美しさなどに気づく。</p> <p>② 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。</p> <p>③ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</p> <p>・生活の中でイメージしたこと、感じたこと、思ったことを描いたり、歌ったり身体を動かしたりして、自由に表現しようとする。</p>	<p>① 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。</p> <p>② 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。</p> <p>③ 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。</p> <p>④ 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。</p> <p>⑤ いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。</p> <p>⑥ 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。</p> <p>⑦ かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。</p> <p>⑧ 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。</p>

## 内 容 の 取 扱 い

- ① 豊かな感性は、身近な環境と十分に関わる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事、などに会い、そこから得た感動を他の子どもや保育士等と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること。その際、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること。
- ② 子どもの自己表現は素朴な形で行われることが多いので、保育士等はそのような表現を受容し、子ども自身の表現しようとする意欲を受け止めて、子どもが生活の中で子どもらしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。
- ③ 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、他の子どもの表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切にして自己表現を楽しめるように工夫すること。

## 参 考

「子どもとメディア」の問題に対する提言  
社団法人 日本小児科学医会「子どもとメディア」対策委員会  
5つの提言

1. 2歳までのテレビ・ビデオ視聴は控えましょう。
2. 授乳中、食事時のテレビ・ビデオの視聴はやめましょう。
3. すべてのメディアへ接触する総時間を制限することが重要です。  
1日2時間までを目安と考えます。
4. 子ども部屋にはテレビ・ビデオ・パソコンを置かないようにしましょう。
5. 保護者と子どもでメディアを上手に利用するルールをつくりましょう。

## IV 乳児保育

### 1. 乳児保育の意義

近年の研究により明らかになったのは、乳幼児期に身につけた力、非認知能力という「心の力」は一生続く力の土台になるといわれている。そのため乳児保育は一層重要になってきている。「子どもが信頼できる大人との関わりを通じた安心感の基盤が心の中に形成されていること」で人間の心は育っていく。人生で最も著しい発達を遂げる最初の3年間、乳児～幼児期への育ちの過程こそ大事にしたい。

また子どもの豊かな発達を願う上でも、保護者への支援、保護者と保育士の関係づくりが大切になってきている。

### 2. 乳児保育の方法

(1) 安全な環境の中で快適に生活できるようにする。

一人一人の子どもの健康状態や心身の発達を把握すること。感染症にかかりやすい時期なので疾病などの早期発見に努める。

(2) 一人一人の子どもの生活リズムを大切にし、様々な生理的欲求を満たす。

食事・排泄・睡眠など一人一人の生理的欲求に優しく応じながらそれらを満たすこと。特に食事面では、個人差に応じて家庭と連絡をとりながら授乳、離乳食、幼児食と無理なく移行すること。

(3) 身体活動を行い運動機能の発達を促す。

(4) 保育士とのやりとりのなかで、喃語や発語の意欲を育てる。

子どもに優しく語りかけたり、歌いかけたり、喃語に応答したりして保育士との関わりを楽しいものとし信頼関係を深める。

(5) 生活と遊びを深く関連させながら、興味や好奇心を育てる。

子どもの意欲を育てる保育環境をつくりだし、探索活動を認めながら様々な発達を促す。

(6) 保護者との信頼関係の中で共に育てる。

子どもの24時間の生活を考え、家庭ときめ細やかな連携をとり相互理解を深め、子育てを共に行う。

(7) 子どもを生活の主体者として育てる。

### 3. 乳児保育の環境

(1) 人的環境

長時間を過ごす場であり、できる限り家庭的な温かい雰囲気をつくることを心がける。いちばんの環境は保育士である。応答的で温かい関わりが重要であるが、そのためにも落ち着いた空間づくりが求められる。生活・遊びを大人たちが関わることによって子どもは成長する。大人と微笑みあい、子どもの表情やしぐさに答えて大人は語りかけ、きめ細やかなふれあいの中で心身の発達を促すようにしたい。

また保育士だけではなく、同年齢の子どもや大きい子どもとの関わりを受けて育つことも重要な役割を果たしている。

① 乳児は疾病の早期発見、適切な治療が必要となるため、乳児クラスでは看護師の設置が望ましい。

- ② 健康診断、疾病の予防及び必要に応じて救急処置を行うなど、適切な保健管理を実施するために嘱託医の協力が必要である。
- ③ 乳児の給食においては、発育状態、摂食状況及び家庭の食生活を理解したうえで、個人差を考慮した離乳食の進め方が必要になる。また体調によっても配慮する事が出てくるため、給食担当の職員との連携が日々細やかに行われることが必要である。
- ④ 乳児保育では複数担任となることが多いが、担任間の連携、また園全体の職員との連携も大切である。

## (2) 物的環境

落ち着いた家庭的な環境で、情緒的で安心・安定して過ごせることが発達の基盤となる。自分の好きなことをして遊びこむためには、まず安心して過ごせる環境が必要だ。採光・換気・室温・清潔は特に注意して、乳児が長時間生活する場としての健康と安全には十分配慮が必要である。

### ①室内の環境

#### ア) 安定した生活の場をつくる。

0歳児クラスだと、産休明けの乳児から1歳前後の子どもがいっしょに過ごすことも多い。一人一人を大切にする日課づくりをするためにも、睡眠・遊び・食事を落ち着いてできるような環境づくりが望ましい。月齢の小さい子どもは安全を考慮してベッドを用意してしっかり睡眠がとれるようにしたい。睡眠時は保育士が子どもの状態をしっかり見守り、把握していくようにする。

#### イ) 意欲を育てる保育環境

室内でも体を動かせる環境が不可欠である。特に0歳児では、はいはいからつかまり立ちへと促す環境が求められる。現在の家庭では十分にははいはいができる空間をとりにくくなっているだけに、園ではスペースを確保する工夫が求められる。またさらに安全性に配慮しながら、くぐったり、登ったり、降りたり、動き回ったりなど多様な動きがたくさんできるような工夫も大切である。

- ・五感を働かせて得た体験は豊かな感性を育む。音環境も重要で、保育士の大きな声や過剰なBGMも避けたい。
- ・一人一人の生活リズムを大切にしながら、子ども同士の関わりも大切にする。玩具で遊ぶひとり遊びを十分に行うと共に、いっしょに関わる保育士や子ども同士の関わりが0歳児であっても大切である。
- ・トイレや沐浴室は明るく清潔で換気がよく、子どもに不安を感じさせないように保育室に隣接しているほうがよい。排泄の自立へ向けてオマルを使用したり、パンツをはく場所を用意したり、子どもたちの成長に合わせた配慮が必要になってくる。

### ②屋外の活動と環境

子どもたちの健康面からも屋外で過ごすことを大事にしたい。一人一人の健康状態や安全性に配慮しながら、外の日光や空気にふれることが大切である。身体能力が著しく発達する0～2歳児にとって安全な場所で、安心して全身を動かす楽しさを知ったり、探索活動をしたりする外あそびの場は必要だ。外あそびでは室内だけでは得られない暑さ・寒さなどさまざまな感覚も養われていく。

また、室内以上にもものとの出会いや対話もあり、豊かな感性が育まれていく。

- ・砂や泥とふれあう楽しさ・・・さらさらした砂の感触、水を混ぜた泥の手触りは子どもたちにとって魅力的だ。園庭で、園外でいろいろな場で砂や泥にふれる機会を持ちたい。



## 4. 乳児保育の実際

### (1) 食事

- ・赤ちゃんは授乳してくれる人とのコミュニケーションを学ぶ。ゆったりとした雰囲気の中で授乳が行われるようにしたい。
- ・離乳食がスタートするにあたっては、同じ月齢であっても一人一人違いがあるため保護者や給食担当の職員と相談しながら、それぞれの成長にあった離乳食の進め方をしていきたい。
- ・食べたい気持ちを大切に、食べることは楽しいと子どもたちが感じることができるようになる。手づかみでも食べる意欲を育てたい。

### (2) 排泄

- ・「おむつをかえるよ」「きれいにしようね」とこれから始めることを、できるだけことばにして話かける。そのうちに赤ちゃんも何かが起こることを予測できるようになっていくだろう。
- ・排泄の自立に向けて大切にしたいのは、排泄の間隔と様子を知って、トイレに誘っていくことである。じっくりゆっくりと根気強く対応していきたい。個人差があるので、一人一人の把握が必要である。

### (3) 睡眠

- ・保護者の生活リズムの夜型化から、赤ちゃんの時から夜型化している場合もあるが、睡眠のリズムを整えることは大切である。
- ・睡眠時は、子どもの側から離れず保育士は見守ることが大切である。

- ① 子どもを一人にしないこと
- ② 乳児の睡眠中の窒息リスクの除去としては、医学的な理由で医師からうつぶせ寝を勧められている場合以外は、子どもの顔が見える仰向けに寝かせる。
- ③ 睡眠前には口の中に異物等がないかを確認し、布団や衣服などが口にかからないかどうか見守り、ミルク等を吐き戻さないか注意する。
- ④ 定期的に子どもの状態（呼吸、顔色など）にも注意して SIDS（乳幼児突然死症候群）から子どもを守るために、睡眠時は状態をチェックし記録しておく。
- ⑤ 子どもの体調について知っておくこと。

### (4) 発達とあそび

発達には個人差があり、いつまでに発達しておくべきというわけではないが、発達の道すじを理解し子どもたちに働きかける関わりが大切である。

#### ①大人を好きになる乳児期

乳児期において最も大切なことは、大人を好きになることである。寝返りもはいはいも子どもは大好きな大人からの働きかけでやってみようとする。玩具も大人が振って音を出すから、魅力を感じて手を伸ばすのであり、子どもの世界は大好きな大人が存在によって広がっていく。



#### ②自分のしたいことを築いていく幼児期前半

大好きな大人に気持ちを向けて世界を広げてきた子どもは、大好きな大人のしていることに気持ちを向けて取り入れていく。大人の行動の中で自分のアンテナにかかった行動を取り入れて、頭の中のイメージとして蓄え「したいこと」を築いていく。自分でしたいことを選び「したいーしたくない」を主張し、したいことをやりきることで「できる」自分を築いていく。

<乳児期前半>



生後約半年を乳児期前半ととらえる。すべての生活を大人に依存しているが、子どもは心の世界を持って何かを感じ伝えようとしている。大人には、子どもの思いを大切に受けとめて働きかけていくことになる。



おおよその目安として、発達の特徴を示したが、子どもの発達は個人差があることを考慮する。

	3、4ヶ月	5、6ヶ月
子どもの姿		
運動・姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首がすわる。</li> <li>・うつぶせでは前腕で支えて少し顔を持ち上げる。</li> <li>・ときどき頭を持ち上げる</li> <li>・手を軽く握っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寝返りをする。</li> <li>・足腰を活発に動かす。</li> <li>・手でつかむ。手のひらの内側に入っていた親指を外側に出せるようになる。</li> <li>・手のひらで支える腹ばい姿勢ができるようになる。</li> </ul>
生活と特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼と夜の区別が不明瞭な状態から2時間くらい続けて起きているようになる。</li> <li>・目や顔をよく見るようになる。</li> <li>・世話をする人の顔をじっと見るようになる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼夜の睡眠リズムができてくる。</li> <li>・音がした方向を見る。</li> <li>・見え方が変わり、追視できる範囲が広がる。</li> <li>・正面にある二つのものを見比べるようになる。</li> </ul>
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生理的的微笑から、あやされると視線が合うようになる。大人は機嫌のいい時に抱き上げて優しく話しかけることが大切である。</li> <li>・喜んでいることをはっきり顔に表す。</li> <li>・新しい人に興味を示す。</li> <li>・吊り玩具を見て遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っている人に自分から笑いかける。</li> <li>・大人からの話しかけに、盛んに喃語をいうようになる。</li> <li>・人とのふれあいを求める。</li> <li>・目に見えるものから、選ぶことが出来るようになっていく。</li> <li>・見たものに手を伸ばしてとる。</li> <li>・がらがらなど手にとったもので遊ぶ。</li> </ul>

<乳児期後半>

乳児期後半の発達段階は生後6, 7か月頃始まり、1歳半頃の発達の質的転換期までのあいだである。まずからだの主人公になろうとする子どもの願いから始まって来る。

	7, 8ヶ月	9, 10ヶ月
子どもの姿		
運動・姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うつぶせでおなかをつけて回る。</li> <li>・ずり這いをする。</li> <li>・支えられてしばらく座る。</li> <li>・右左どちらへも寝返りする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お座りをする。</li> <li>・膝をまげて四つ這いをする。</li> </ul>
生活と特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人見知りが見られ始める。</li> <li>・右左どちらの手でも玩具をとれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜の眠りが安定する。</li> <li>・両手にもものを持って遊ぶ。</li> <li>・小さいものを指先でつまむ。</li> </ul>
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・からだの位置を変えるためだけでなく、欲しい玩具をめがけて目標をもった移動をし始める。</li> <li>・「ナンナンナン」「パパパパパ」など、心地よさを声で表し、「アアア」と相手に語りかけるような声を出すようになる。</li> <li>・まわりに玩具を置き、回転移動しながら遊ぶ。</li> <li>・いないいないばあを楽しむ。目に見えなくなっても、またでてくるところを予測して待っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くすぐり遊びを期待するようになる。</li> <li>・人見知りは「怖いけれども興味がある」という揺れ動く心の動きを表している。不安な揺れ動く心を支えてくれるのは、子どもが安心して信頼できる大好きな人である。</li> <li>・見えない世界への期待の力は、つかまり立ちなどの新しい移動の手段の獲得のために大切な役割を果たすようになる。</li> </ul>

	11、12ヶ月	1歳半頃
子どもの姿		
運動・姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に向かって這って行き、自分で座位になって遊ぶ。</li> <li>・高這いをする。</li> <li>・つかまり立ちから、伝い歩きをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両手を広げながら、よちよち歩きをする。(体のバランスをとって歩く)</li> <li>・歩行がだんだん安定し歩く距離も長くなっていく。</li> <li>・段差や階段の上り下りをする。</li> </ul>
生活と特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の知らないものへの不安が心の中に広がります。新しい場所への不安、はじめての玩具、新しい味覚にも少し不安そうな表情をみせる。</li> <li>・バイバイの身振りを自分からする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指さしが盛んになる。人差し指で発見の喜びを伝える。</li> <li>・何でも自分でやりたがるようになる。(自我の芽生え)</li> <li>・手指の動きが細かくなり、道具を使うことが出来るようになる。</li> </ul>
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物の受け渡しができる。相手が喜びをもって受け止めてくれる経験を通じ、子どもは「うれしい」という相手の感情を発見し学習していく。</li> <li>・受け身が嫌で、「される」ことを嫌い「自分でしたい」という生活の主人公への生まれ変わりの時期になる。うまくできなくても自分で食べたいという姿も見られる。</li> <li>・指さしがみられるようになってとともに「マンマ」のように具体的な要求を伝える手段にもなり始める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し言葉が獲得されていく時期になる。</li> <li>・大人の行動のまねをする。</li> <li>・指先を使って遊ぶ。積木を積んで遊び始める。</li> <li>・「したいこと」をもち、それを相手に伝えようとする「自我」ができ始めた。</li> <li>・認知力がぐんと高まり、細かい違いにも気付くようになる。</li> </ul>